



千代田区障害者就労支援センター通信

ちよだジョブコーチジャーナル

働くことを応援する

No. 68

～自分のペースで無理なく働ける場所～



株式会社オープンアップウィズ

●「ウィズ」に込めた思い

2020年1月に株式会社ビーネックスウィズへ、2023年7月に現在の株式会社オープンアップウィズへの商号変更をされました。社名「ウィズ (With)」に込めたものは、『個々人それぞれが個性を発揮して、「一緒に幸せになろう!』という思いだそうです。ちよだジョブコーチジャーナルでは、2020年11月発行の49号で取材をさせていただきました。今回は前回の取材当時から5年経ち、コロナ禍における働き方の変化にどのように対応してこられたかに焦点を当ててお話を聞きました。

● コロナ禍での働き方の変化 在宅勤務という選択肢

ウィズでは、ものづくりを中心としたプロダクト事業と事務受託を中心としたアウトソーシング事業で構成しています。

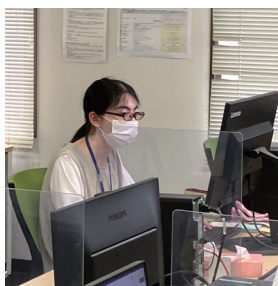
プロダクトユニットでは、在宅ワークに適した業務内容の見直しを行ってきたそうです。これまでの対面での作業に加え、イラストを描くお仕事や、お花のアレンジメントの一部作業、紙製品の製作など、自宅でも取り組むことができる業務を新たに取り入れています。

その結果、生産量もわずかではありますが増加し、生産性の向上にもつながっていったそうです。今後も、働く環境の改善と業務の工夫を通じて、より良いモノづくりの体制づくりに努めていきますと話されていました。

アウトソーシングユニットでは、コロナ禍において出勤と在宅勤務をおおよそ半半ずつ取り入れた働き方を行ってきました。コロナ禍の当時は、急速な環境の変化に対応しながら、業務を継続するための柔軟な働き方が求められていました。その後も、私たちは働き方の多様化を積極的に推進しており、現在では全体の73%以上のスタッフが、週に3回以上在宅勤務を行う体制へと移行しています。また、入社時から完全在宅による働き方も取り入れ採用を積極的に進めていったそうです。場所にとらわれずにスタッフ一人ひとりが自分のペースで無理

なく働ける環境の整備を進め、より柔軟で効率的な働き方を実現しています。

● スタッフ2名へインタビュー



○アウトソーシングユニット

遠藤さん 入社4年

Q1「入社のきっかけは？」

A1：入社時期がコロナ禍で求人が全然なかったことを覚えています。そんな中ハローワークでウィズの求人を見つけて、事業所をお願いをして同行してもらい見学をしました。

実習は二日間あったのですが、コピー機や契約書のスキャンなども丁寧に「こうしたほうがいいよ」と教えていただけて、できそうだなと思いました。また、月一度のカウンセリングがあることも、とても大きな安心感に繋がりました。

Q2「どんなところが働きやすいと感じますか？」

A2：入社のきっかけでも話した、カウンセリングの機会が私にとって働きやすさに繋がっています。また、業務一つ一つにしっかりとマニュアルがあり、不安があるときはいつでも見返せることがありがたいです。マニュアルをまず見て、それでもわからなければ指導員に聞くようにしています。指導員は日頃から優しく接してくれ、女性が多くとても安心してしています。

Q3「お仕事のやりがいはいは？」

A3：最初と比べ、だんだんとスキルに合わせて色々と任せてもらえるようになり成長を実感しています。信用されていると思うことがやりがいに繋がっています。

Q4「今後の目標は？」

A4：これからもウィズで働き続けたいと思っています。まだやったことのない他の業務にも色々挑戦してみたいです。



○プロダクトユニット 坂本さん入社8年

Q1「入社のきっかけは？」

A1：就職活動をする中でハローワークに行ったら、事務職の求人が多くあまり興味を持てませんでした。そんな中ウィズの求人と出会い、私はもともとものづくりが好きだったので挑戦してみようと思い、実習に参加させてもらいました。

高校は園芸デザイン科に通っていて基礎的なことは高校で学びましたが、フラワーアレンジメントは今まで本格的にやったことがなく、入社してからはもっと深く基礎から学ばせていただきました。最初はテーピングを繰り返してばかりで不安もありましたが、少しずつデザインをさせてもらえるようになり、仕事を楽しみな！と感じるようになりました。

Q2「今後の目標は？」

A2：これからはもっと知識や、デザインの幅を広げたいと思っています。そのためにたとえば色彩検定や、カラーコーディネートの資格取得にも取り組んでみたいです。ただどんなに紙で勉強したとしても、「デザイン力」が身につくかどうかは別の話だと思うので、自分の可能性も信じて、努力をしていきたいです。

●取材を終えて

この度は非常にタイトなスケジュールの中、取材をお引き受けいただいたこと大変感謝しております。コロナ禍において、働き方の多様化が急激に進み、多くの企業が対応に苦心されていたと思います。お話を伺うまでは、ものづくりを始めとする軽作業では、対面の作業が中心となるため、在宅勤務は難しいのではないかと考えていました。しかし、作業工程を細分化し、自宅でも取り組めるような工夫をして在宅勤務を可能にしたことは、他の企業でも検討していけるのではないかと感じました。インタビューを受けていただいたお2人はそれぞれに自分の業務へ自信を持って取り組まれており、「ウィズ」の「一緒に幸せになろう」という思いを体現して働かれている姿がとても印象的でした。働く社員全員で「一緒に幸せになろう」と考えてくださる企業がさらに増えていくことを願っています。

【会社概要】 (インタビュー/構成：佐藤 美津紀)

株式会社オープンアップウィズ

所在：(本社) 神奈川県相模原市中央区南橋本 2-9-10

(四ツ谷サテライト) 東京都千代田区五番町 14 番地 国際中正会館 9 階
フラワーアレンジメントのデザイン・制作・発送、ステーションナリー(紙製品)のデザイン・制作・発送、アウトソーシング(グループ会社の事務受託)、事業所内の清掃等を行っています。 <https://www.benextwith.com>

EVENT × NEWS

令和6年度第4回地域交流会 障害のある方の「働く」を考える ～自身に必要な配慮とは何か？～

●東京障害者職業センター

主幹障害者職業カウンセラー 半田 真貴子氏



第1部の講演では、東京障害者職業センター主幹障害者職業カウンセラー半田真貴子氏より「職場で必要な配慮を考えるために」と題し、合理的配慮における概要、実際に合理的配慮を提供するうえでの基本的な考え方、手順についての説明をいただき、さらに東京障害者職業センターでの取り組み事例を交えながらお話いただきました。その中で当事者においては自身の障害特性を支援者ではなく、自身で説明できることを重要とし、企業においては相互理解をすることで、当事者のニーズと事業主のリソースを調整し、合理的な着地点を目指すことが大切であることが強調されました。

第2部の事例紹介では就労支援センターでの合理的配慮の取り組み事例について2事例(精神障害、知的障害)発表しています。質疑応答では参加者より多くの質問が寄せられました。

千代田区就労移行支援事業所 CONNECT秋葉原 ～精神・発達障害特化の支援～



CONNECTは現在関西を中心に12事業所を展開しており、精神・発達障害の方に特化した就職支援を行っています。秋葉原事業所は、2024年11月にオープン。秋葉原駅から徒歩5分、神田駅から徒歩2分とアクセスも便利で通いやすい場所にあります。

CONNECTでは社会人として必要な力を身につけ、自身の適性・特性に合った仕事に就くための支援をオリジナルのプログラムで行っています。体調と生活リズムの安定を実現する「ライフスタビリティコース」、就職に必要な必須スキルを習得できる「ビジネススキルコース」、仕事を通じた人生設計をする「キャリアデザインコース」、そして書類選考・面接を通るコツを伝授する「リクルートコース」を提供しています。就職相談や施設見学はいつでも受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

住所：東京都千代田区神田須田町 1-5 KSビル6F

HP： <https://www.connect-syrou.com/center/akihabara/>

お問合せ：平日 9:00～16:30 TEL03-6285-2474

最寄駅：JR神田駅から徒歩2分、東京メトロ丸ノ内線淡路町駅徒歩4分



就労支援のお問い合わせ

電話：03-3264-2153 FAX：03-3556-1223

E-mail: chiyoda.syroushien@city.chiyoda.lg.jp

発行：千代田区障害者就労支援センター 第68号(2025年6月30日発行)

取材協力：株式会社オープンアップウィズ

毎回、働く障害のある方やその職場を紹介していきます。次号もご期待下さい。